

● 「ペット」マーケット

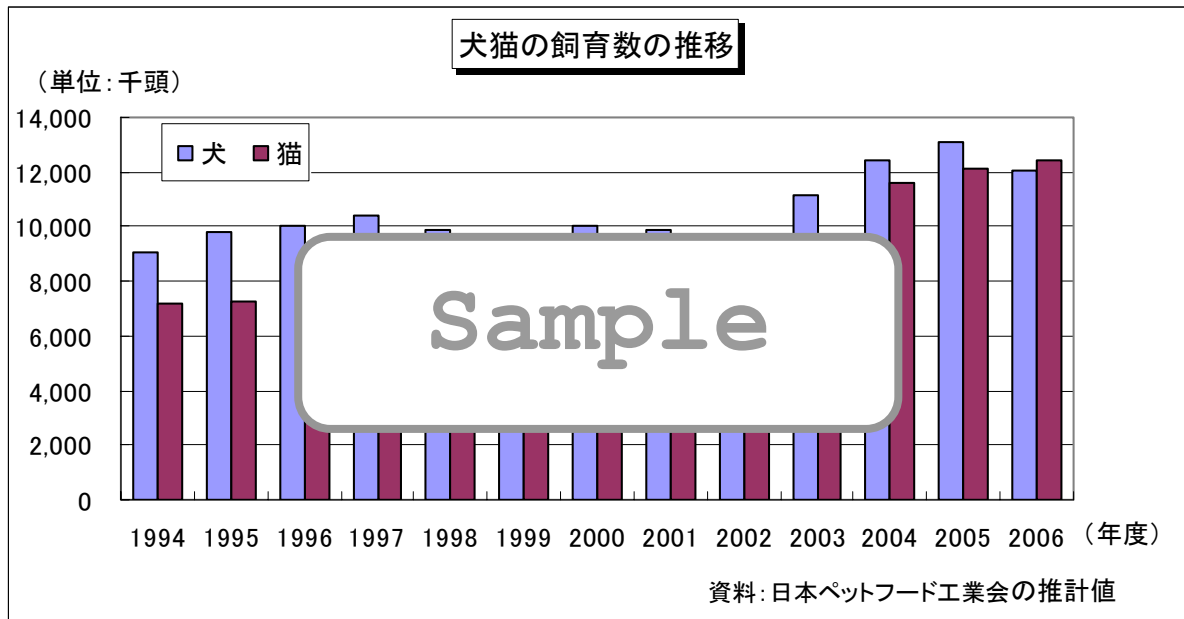
1. マーケットの概況

(1) マーケットの位置づけ

- ペットマーケットは、コンシューマーベースでは、生体、ペットフード、ペット用品の販売、ペット関連サービスを提供するペットショップ、また、ペット関連サービスとしては、ペット医療、ペット医療保険、ペット美容院、ペットホテル、ペット霊園、ペットパークなどの様々な種類があり、それぞれ異なる市場構造を呈している。
- 2000 年に入り、犬猫の飼育数が増加傾向にある。2006 年には、ペットブームの様相を呈している。近年、ペット市場の拡大傾向にある。近年、単なる愛玩動物から、生活のパートナー、伴侶としての「コンパニオンアニマル」という概念も普及してきており、飼い主がペットに対してかける費用は増加しており、その商品やサービスも多様化が著しい。
- 本レポートでは、「ペット」をキーワードに関連する産業である「ペットフードメーカー」、「ペットショップ」、「ペット美容院」、「ペットホテル事業」、「ペット病院」、「ペット霊園事業」を対象にマーケットの解説をしていく。

(2) マーケットの動向

- ペットの飼育数は、年々増加傾向にあるといえる。ペットフード工業会の推計によると、犬・猫の飼育数は、周期的に増減がみられるものの、2002 年以降、増加傾向にある。しかし、2006 年に犬が 1,209 万頭（対前年比 92.5%）、猫が 1,246 万頭（対前年比 103.0%）となり、犬の飼育数が大幅に減少して犬と猫の飼育数が始めて逆転した。



■ペットが人生のパートナーとして扱われてから、犬・猫の平均余命も伸び、老齢化が進んでいる。2006年の犬と猫の年齢分布は下記のとおりであるが、犬・猫ともに老齢化が進み、人の年齢でおよそ65歳以上と換算される年齢は、犬が12歳以上、猫が8歳以上であり、該当する年齢の犬は全体の18%、同じく猫は全体の38%を占めている。なお、日本の総人口に65歳以上が占める割合は、2006年で20.9%であることから、犬・猫の老齢化は、人と同程度かそれ以上に進んでいるといえよう。

犬と猫の年齢分布



■今後、老齢ペットの死亡数が増加することが予想されるが、新たな幼齢ペットの増加もあり、ペットの飼育頭数は、大きな変化はないと考えられる。また、少子高齢化に伴う人の家族構成、生活スタイル・環境の変化で、ペットの必要とする人が今後も増加としていく予想される。すでに、ペットが入居可能なマンションは増加の一途をたどっており、ペットのいる生活が欧米

並みにスタンダードになっていくだろう。

- 次に、総務省の「家計調査年報」からペット関連の家計支出金額の推移をみると、ペットフードは2003年までは順調に支出金額を伸ばしてきたものの、2004年以降前年割れが続いている。その一方で、動物病院代、用品類の支出額は増加傾向にある。

1世帯当たりのペット関連への年間家計支出金額の推移

(単位:円)

品目	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年
ペットフード					4,943	4,682
前年比					94.4%	94.7%
動物病院代					7,531	3,714
他の愛がん動物・同						4,028
前年比	—	103.2%	93.2%	113.8%	100.8%	102.8%

資料：総務省「家計調査年報」を基に当社作成

- なお、ペット美容院やペットホテルなどの事業でペットを預かる場合は、2006年6月の動物愛護管理法の改正で都道府県知事へ動物取扱業の登録が必要となっている。

2. 業種別市場動向

(1) ペットフードメーカー

- ペットフードメーカーの市場規模は、2005年に約2,468億円となり、2006年には2,500億円（対前年比101.3%）となる見込みである。しかし、ペットの飼育数は頭打ちの傾向がみられ、ペットフード産業は成熟産業化しつつあるといえる。すでに猫用ペットフードは減少傾向となりつつあり、メインの犬用についても横ばいなし、微増傾向にとどまっている。
- 2005年度の農林水産省統計によれば、用途別ペットフードの市場規模は以下の通りである。これによれば、全体の6割弱が犬用、全体の4割弱が猫用である。犬用は2001年以降伸び続けていたが、2005年度は若干比率が減少となった。一方、猫用、その他用は2000年以降横ばい状態が続いていたが、2005年度は微増での推移となった。

ペットフードの用途別出荷金額（2005年度）

（単位：百万円、％）

種類	出荷金額	構成比率
犬用		
猫用		
その他用		
合計	246,626 (242,007)	100.0 (100.0)

※（ ）は2004年度の数値

資料：農林水産省「ペットフード産業実態調査」を基に当社作成

(2) ペットショップ

- 2006年のペットショップの市場規模は、約4,348億円（対前年比103.0%）となっており、年々着実に拡大している。
- ペット小売業界はペット専門店、ホームセンター、通販など業態も様々である。この中で、ペットショップは全国に分布しており、中小零細企業主体ではあるものの、数の上では高いウェイトを占めている。近年は、ホームセンターや総合ペットショップ、大手専門店など大型店が増加する傾向にある。また、近年はペットショップなどが行うインターネット販売も増加してきている。
- ペット関連サービスとしては、様々なサービスが現れており、ペットショップはペットの生体と関連用品の販売だけでなく、提供するサービスも多様化している。主なサービス分野としては、①ペット医療、②ペット保険、③ペット美容、④ペットホテル、⑤ペットシッター・お散歩代行、⑥ペット霊園、⑦ペット関連のeコマース、⑧ペット共生住宅、⑨ペット関連の人材育成事業、⑩ペットパークなどがある。

(3) ペット美容院

- ペット美容院の市場規模は、犬・猫を飼育している世帯のトリミング費用の平均額を用いて推計すると、2006年には約331億円（対前年比94.5%）となる見通しである。
- 2006年に犬の飼育数は減少したが、トリミングの対象犬種は年々増加しており、トリマーの数も増えていることから、ペット美容院の市場は今後拡大が予想される。JKC（（社）ジャパンケネルクラブ）公認のトリマー数は2002年以降も増加しており、2005年は総数で15,832

人となっている。また、有資格者の増加は、A級、B級の上位資格に顕著に見られることから、高い技術を提供することで、トリミング料金の単価アップにつながっていると考えることができよう。

JKC公認トリマーの数の推移

(単位：人)

	2002年	2003年	2004年	2005年
総数	14,202	14,856	15,522	15,832
師範				18
教士				80
A級				202
B級				959
C級	5,348	5,857	5,783	5,573

資料：(社)ジャパンケネルクラブの資料より

- トリミングの専門店であるペット美容院は、個人経営が多く地域密着型であるため、トリミング技術が差別化の主要因となる。顧客の自然・健康志向に対応した温水浴、マッサージやアロマセラピー、泥パックなどを実施する店舗も増えており、サービスの多様化が進んでいる。
- ペットショップや動物病院などは、トリミングやペットホテル、しつけ教室などの関連サービスをワンストップで提供できる複合店にシフトしてきている。

(4) ペットホテル事業

- ペットホテル事業は、ペット関連産業全体の伸長に伴い、順調に市場規模が拡大してきており、2006年で約287億円（対前年比120.6%）と2003年以降、前年比20%増という勢いで成長している。
- ペットホテルの有力参入企業には、ペットショップや動物病院、ペット美容院などを主事業とし、兼業でペットホテルを併設する企業が大多数を占める。また、海外旅行者や長期旅行者向けに、空港の隣接地に自家用車の預かりとペットホテルの両方を経営する企業も登場している。ペットホテル事業は、総合ペットショップや動物病院等で集客力アップを見込めるサービスとして注目されている。
- ペットホテル事業者の中には、犬専用のペットホテルや猫専用のペットホテル、鳥専用のペットホテルなど、預かる動物の特定や、1日に預かる動物の数を限定するなど、より丁寧なケアを訴求要因としており、ペットホテルの専門化を進めている事業者も存在する。また、人間と

同じように老齢犬を専門に預かる老犬ホームが開業しており、預かる形式も多様化が進んでいる。

(5) ペット病院

- 2006年のペット病院の市場規模は、約3.383億円（前年比102.0%）となっている。2000年代に入ってからのペット病院は、堅実な成長を続けている。
- 「ペットは家族」として愛されるペットが増え、ペットの健康維持や病気の予防、治療にも高度な専門知識を要する専門医療が求められる。
- しかし、獣医療技術の高度化やペットの高齢化により、高額な治療費がかかるケースが多く、経済的な事情で十分な医療を受けられず、治療をあきらめる場合もある。このため、飼い主の経済的な負担を軽減できるペットの医療（共済）保険のニーズが高まっている。
- 現在、日本のペット保険の加入率は1%前後といわれているが、国内で数多くの団体（20社前後と見られる）がペット（犬と猫を対象とすることが多い）の医療共済の運営に参入している。日本のペット共済（保険）会社の大手として挙げられるのは、日本ペット共済会、アニコム、アイペットクラブ、日本アニマル倶楽部、アリアンツ・ペット保険、ペットライフジャパンなどがある。

(6) ペット霊園事業

- 2006年のペット霊園事業の市場規模は、約145億円（対前年比94.9%）となった。また、ペット霊園事業・ペット葬祭業の事業者数は、2,273事業所（対前年比108.1%）と増加しており、市場規模に対して参入事業者の数が多くなっている。
- ペット霊園における火葬サービス、墓地・納骨堂の利用サービス、墓地・納骨堂の管理サービスの三つの事業のうち、もっとも伸長しているのが墓地・納骨堂の管理費で、2002年に1,473百万円であった事業高が、2006年には、2,271百万円となり、154.1%の増加となった。
- 火葬事業については、衛生的な観点からも、ペットの火葬率は上昇していくとみられるが、ペットの火葬施設は、設置に基準がなかったことから、各市町村でペット霊園の設置に関する条例・指導要綱が制定され、地域住民の反対もあり新設は難しくなりつつある。
- ペットの墓地・納骨堂については、ペットに対する家族化に伴い、需要は拡大しているが、

ペットを飼育する人の意識も二極化が進んでいる。ペットの飼育の多くは合同飼育で個別に埋葬するケースは少なかったが、墓地や納骨壇に個別埋葬するケースが増加している。近年では、ペット専用墓地が一般化し、人と同等以上といえる納骨壇もみられるようになった。また、メモリアルアートの大野屋は、人とペットの遺骨が埋葬可能な墓地の提供を2003年から始めており、従来のペット霊園の設備や管理方法に不満のあった層から支持を得ている。

3. 有力参入企業

(1) ペットフードメーカー

有力参入企業概要一覧

売上順位	企業名	営業種目	上場	企業所在地	電話	設立年月	資本金 (千円)	従業員数 (人)	2005年 売上高 (千円)
1	(株) ヤマヒサ								000
2	ユニ・チャームパ (株)								000
3	日本ヒルズ・コル (株)								000

資料: 各社HPなどを基に当社にて作成

(2) ペットショップ

有力参入企業概要一覧

売上順位	企業名	営業種目	上場	企業所在地	電話	設立年月	資本金 (千円)	従業員数 (人)	2005年 売上高 (千円)
1	(株) コジマ	ペットショップの経営、動物病院							00
2	ペプロコジャパンホ グス (株)								72
3	エムケースエマツ (株)	(50%)		4 神南ビル5F					030

資料: 各社HPなどを基に当社にて作成

(3) ペット美容院

有力参入企業概要一覧

売上順位	企業名	営業種目	上場	企業所在地	電話	設立年月	資本金 (千円)	従業員数 (人)	2005年 売上高 (千円)
1	ジャベル (株)			愛知県春日井市桃山町3-					000
2	(株) リックコー ン								00
3	(株) コジマ	品の輸入・販売							00

資料: 各社HPなどを基に当社にて作成

(4) ペットホテル事業

■ペットホテル事業の有力企業上位3社は、ペット美容院の有力企業と同じとなっている。

(5) ペット病院

有力参入企業概要一覧

売上順位	企業名	営業種目	上場	企業所在地	電話	設立年月	資本金 (千円)	従業員数 (人)	2005年 売上高 (千円)
1	(株) 荻谷動物病院	小動物を対象とした動物病院の経営		東京都江東区北砂2-1-6					599
2	(株) ブイエスシー								000
3	(株) ダクタリジャ								000

資料: 各社HPなどを基に当社にて作成

(6) ペット霊園事業

有力参入企業概要一覧

売上順位	企業名	営業種目	上場	企業所在地	電話	設立年月	資本金 (千円)	従業員数 (人)	2005年 売上高 (千円)
1	(名) 仏教平和会			東京都世田谷区桜新町1-1					000
2	(株) 東京動物霊園								000
3	(株) ペット愛葬社								749

※宗教法人・地方公共団体の運営するペット霊園は除く。

資料: 各社HPなどを基に当社にて作成

4. 市場展望

■ペットブームの背景には、所得水準の上昇に伴ってペット飼育費の負担が楽になり、また、ドライペットフードが開発され、飼育管理が容易になったことが一因とされている。また、少子高齢化や核家族化も飼い主とペットとの関係を変えており、ペットの家族化が進んでいる。こうした環境の変化がペット関連市場の拡大に寄与しており、今後もペット関連ビジネス全体で安定成長が続くものと考えられる。

■また、2004年に発表された東京農工大と日本愛玩動物協会の全国調査によると、ペットの寿命は、この10年余で大幅に延び、犬は3歳以上長い11.9歳、猫はほぼ2倍の9.9歳になっている。ペットの高齢化にともない、ペット病院の利用や健康維持のためのトリミングやグルーミングは不可欠であり、今後は高齢化したペット向けのサービスも拡充していくと予想される。

■動物病院大手のブイエスシーと、総合ペットショップ大手のペプコジャパンホールディングス

株式会社の両社が 2007 年 1 月に統合し、AHB グループとして、動物病院、ペット小売、美容院、ホテル事業を展開する国内最大級のペット関連ビジネス企業グループが誕生した。また、大手ペットフード卸業者のジャペルは、すでにペットショップ、スクール事業を展開しており、ペット産業の有力企業が複数のペット関連事業を展開するケースが目立っている。今後は、有力企業の寡占化が加速し、業界構造はめまぐるしく動いていくと考えら








- 一方、ペットの寿命が長くなる傾向が見られるが、今後は寿命が延びたペットが死亡する時期が到来し、死亡数が増加すると予想される。また、ペットの長寿命化は、ペット病院の需要が拡大する一方で、ペット霊園の利用数が伸び悩む要因となっている。ペットを家族の一員として迎える人が多くなり、ペットの医療やペットの供養も人間と同様にと望む人が今後も増加していくとみられ、ペット病院・ペット医療保険、ペット霊園事業の市場は年々拡大していくと予想される。

DELTA

5. 関連産業の業況

■ 「ペット」マーケットに関連する産業の業況は、以下のとおりとなっている。

「ペット」マーケット関連産業一覧

掲載レポート	レポートコード番号	ISGRレポート タイトル	業況	
○	DF10611	ペットフードメーカー <2007年03月版>	2006年(予)	
○	DJ60951	ペットショップ <2007年05月版>	2006年	
○	DM72116	Sample	2006年	
○	DQ82312		2006年(予)	
○	DN73201		2006年	
○	DQ83502		ペット霊園事業 <2007年06月版>	2006年
—	DL68104	住宅販売事業 <2006年12月版>	2005年度	
—	DL68105	マンション事業 <2006年12月版>	2005年	

※「ISGRレポート」発行済タイトルより(2007年11月現在)



このたびは、「デルタレポート」をご購入いただき、まことにありがとうございます。

当レポートのほか切り口や視点の異なる「デルタスセレクト」もございます。また、便利な業界統計へのアクセスや業界用語辞典といったコンテンツを弊社サイト(<http://www.deltas.jp>)にて無料で提供しております。是非、ご利用ください。

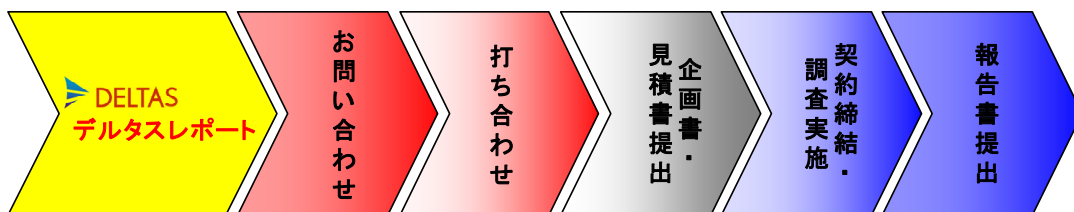
【デルタサービスメニュー】

【無料コンテンツ】	
• Weekly 業界 VIEW	ウィークリーにリサーチャーが業界の動向をレポート。
• デルタス官公庁・業界団体統計	「デルタレポート」に関連した官公庁統計、業界団体統計へすぐアクセス。
• デルタス業界用語辞典	業界用語を50音順、業種別に約2,000語収録。
【有料コンテンツ】	
• デルタスレポート (DELTAS report)	圧倒的な業種数をカバレッジ。業種ごとの市場把握のバイブル。500業種以上のコンテンツを用意、追加業種も随時ご提供。
• デルタスセレクト (DELTAS select)	セレクトは、業種では掌握できない多面的角度でレポートをご提供。500業種を基本に業界全体を俯瞰できる“業界編”。トレンドなテーマや業際・業態によるキーワードでセレクトした“マーケット編”。川上から川中、川下まで流通構造から全体像を一目瞭然に把握できる“バリューチェーン編”。

受託調査のご案内

「デルタレポート」よりさらに詳しい調査をご希望の場合は、下記のカスタマーセンターまでお問い合わせください。当社の各分野に精通したスタッフが、フィールドサーベイやネットワークから得た豊富な知識や経験を活かし、最適なお提案をいたします。お問い合わせから企画書・見積書作成まではすべて無料です。

【受託調査のフロー】



株式会社 デルタアイディ総合研究所

[事業内容]

産業全般の総合的調査／ビジネスコンテンツ事業／自主企画調査資料発刊／分野別受託調査／各種コンサルティング／セミナー・各種研修、書籍発刊等

「デルタスセレクト」

■LS990021 「ペット」マーケット

2007年11月版

【お問い合わせ窓口：カスタマーセンター】

・メール：customer@deltas.jp

・電話：03-3580-3975

・所在地：100-0014 東京都千代田区永田町2-4-11